



朝日新聞

Tokyo Evening

2015年(平成27年)

7月29日

水曜日 夕刊

朝日新聞東京本社
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
電話 03-3545-0131 www.asahi.com

思想家の柳宗悦、陶芸家の浜田庄司、河井寛次郎、バーナード・リーチ。大正から昭和にかけて、日用の工芸品に美を見いだす「民芸運動」に取り組んだメンバーらの姿を記録したフィルムが見つかった。戦前の映像は貴重で、公開に向けてデジタル化の作業が進む。

民芸運動 草創期の姿

フィルム見つかる

に保管していた。柳が創設した日本民芸館(東京都目黒区)で確認してもらった。どし、人物や場所などを特定した。

フィルムは、リーチと柳が各地を訪問した様子の記録映像と判明。浜田が拠点を置いた栃木県益子町では、浜田や職人がろくろを回したり、柳が陶磁器を品定めしていたり。京都の場面では河井寛次郎が「型作り」という製法で作陶していると

ころや、後に人間国宝となる島根の和紙職人、安部栄四郎の元で職人が紙をすき乾燥させている様子も。

日本民芸館の杉山享司・学芸部長によると、民芸運動のメンバーを写した戦前の映像はあまりなく、「運動の草創期の資料として貴重だ」と評価する。

フィルムは劣化しているためデジタル化を進め、2年後に映像集にすることを目指す。「人のぬくもり、そして作り手と使い手の間のぬくもりを見いだした民芸運動の意義は深い。フィルムを研究に生かしてほしい」とグロスさん。

問い合わせはグロスさんの活動を支援している民芸運動フィルムアーカイブ制作委員会事務局(090・9330・0035)へ。

上 馬に乗る柳宗悦
下 作陶する浜田庄司 栃木県益子町、いずれもマリー・グロスさん提供



(村瀬信也)